

一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして(9) 学童保育所(額部学童クラブ)におけるフッ素洗口導入のプロセス

社団法人富岡甘楽歯科医師会 守谷豪人 入山久美子 杉山早苗 松本裕美

歯科医師会常勤歯科衛生士

1) はじめに

富岡甘楽歯科医師会は、平成4年に富岡甘楽口腔保健センターを開設し、地域の歯科保健の充実をめざしている。富岡甘楽歯科医師会では、8020運動の目標を達成するために、平成5年に公衆衛生活動の目標を具体化した「各ライフステージにおける歯科保健対策」を立案し、一生涯を通した歯科保健システムの確立をめざしてきた。今回は、その一環として平成14年9月から実施されることとなった学童保育所におけるフッ素洗口(フッ化物洗口)について紹介する。

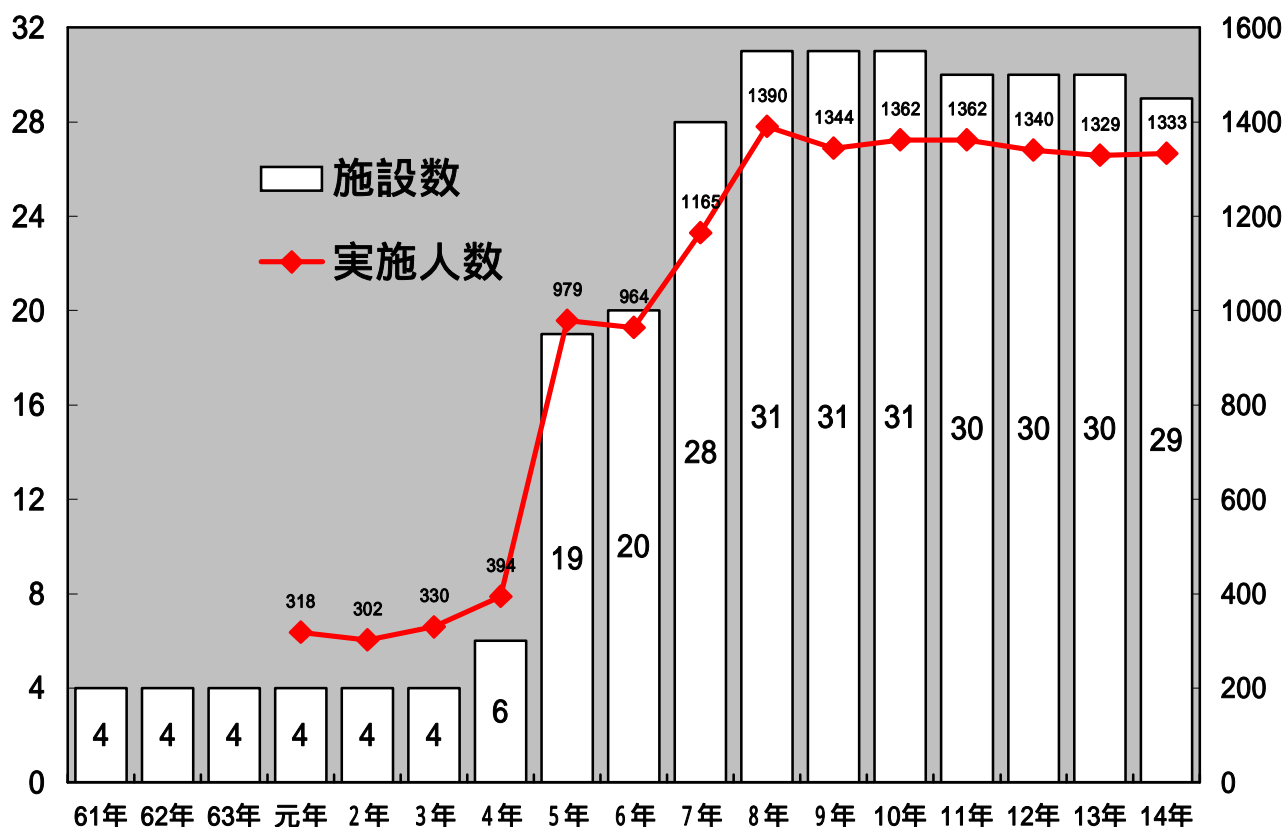
2) 学齢期における歯科保健指導の目的

永久歯列が完成していく学齢期に児童生徒が口腔内の健康を維持向上する力を習得することが、8020を実現させるためにも重要なことである。歯周疾患予防においては、正しいブラッシング方法の習得や歯周組織についての知識の向上が必要と考えている。むし歯予防においては、フッ化物の利用、甘味指導、ブラッシング指導などを組み合わせた予防対策が有効である。

当管内の全市町村では、乳幼児健診時よりフッ化物を利用したむし歯対策が実施されており、就学前のむし歯罹患率は大幅に改善されてきたが、学齢期になると年齢が上がるとともにむし歯罹患率は上昇しており、むし歯予防対策がうまく機能していないことが危惧される。

そこで富岡甘楽歯科医師会では、小・中学校での集団フッ素洗口を行うことが、むし歯予防に有効であると考え、教育委員会や学校関係者等にこれまで何度も協力を要請してきたが、教育現場からの反対が強く、いまだ実現はしていない。今回は、対象人数としてはやや小規模であるが、学童保育所での集団フッ素洗口が開始されることとなり、このことが小中学校でのフッ素洗口の導入につながることを期待している。

富岡甘楽地区幼稚園保育園フッ素洗口実施施設数と実施人数



フッ素洗口実施状況（富岡甘楽地区幼稚園・保育園）2003年（平成15年度）						
施設名（*印は公立）	在園児数	実施数	未実施数	実施率（%）	開始時期	備考
東富岡保育所 *	44	42	2	95.5%	平成7年7月	
中高瀬保育所 *	39	39	0	100.0%	平成7年7月	
黒岩保育所 *	37	37	0	100.0%	平成7年7月	
富岡保育所 *	26	24	2	92.3%	平成7年7月	
額部保育所 *	59	57	2	96.6%	平成8年4月	平成8年度・新設
ひばり保育園	96	92	4	95.8%	平成7年7月	
すみれ保育園	46	45	1	97.8%	平成5年3月	
岡 いずみ保育園	48	47	1	97.9%	平成5年5月	
南蛇井保育園	15	14	1	93.3%	平成7年8月	
一ノ宮保育園	60	59	1	98.3%	平成5年7月	
高瀬保育園	62	62	0	100.0%	平成5年1月	
市 丹生保育園	28	28	0	100.0%	平成7年9月	
一峰保育園	42	42	0	100.0%	平成7年6月	
かしの木保育園					未実施	4・5歳児 45名
富岡幼稚園	60	60	0	100.0%	平成8年7月	
甘楽幼稚園	65	60	5	92.3%	平成8年6月	
七日市幼稚園	106	104	2	98.1%	平成8年7月	
富岡市合計	833	812	21	97.5%		6/5 現在
甘楽 小幡幼稚園 *	57	57	0	100.0%	昭和61年12月	
甘楽 秋畑幼稚園 *	12	12	0	100.0%	昭和61年12月	
町 福島幼稚園 *	44	44	0	100.0%	昭和61年12月	
町 新屋幼稚園 *	59	59	0	100.0%	昭和61年12月	
町 かんら保育園 *	68	67	1	98.5%	平成7年3月	
甘楽町合計	240	239	1	99.6%		7/4現在
下 下仁田保育園 *	22	22	0	100.0%	平成5年7月	
下 馬山保育園	37	32	5	86.5%	平成5年6月	
仁 小坂保育園	7	7	0	100.0%	平成5年6月	
田 かぶら保育園 *	16	16	0	100.0%	平成5年7月	
町 青倉保育園	48	48	0	100.0%	平成5年6月	
下仁田町合計	130	125	5	96.2%		6/26現在
妙 妙義幼稚園 *	46	45	1	97.8%	平成5年7月	
義 高田幼稚園 *					平成5年7月	平成11年度 廃園
町 妙義保育園	45	43	2	95.6%	平成5年6月	
妙義町合計	91	88	3	96.7%		6/27現在
南 南牧保育園 *					平成5年6月	平成14年度 廃園
牧 さくら保育園	25	24	1	96.0%	平成5年6月	
村 南牧村合計	25	24	1	96.0%		6/24現在
富岡甘楽地区幼稚園・保育園合計	1,319	1,288	31	97.6%		平成15年7月4日 現在 フッ素洗口実施施設数 29

3) 学童保育所(額部学童クラブ)におけるフッ素洗口導入のプロセス

(1) 額部学童クラブの経緯

平成9年に額部小学校前において開所、富岡市の委託を受け国・県・市の補助金と保護者の負担金により運営されている。平成10年に現在のJA額部支所のとりに移転した。現在は、指導員4名、児童20~30名で、曜日や学期間の長期休みのみの児童もいるために人数に変動がある。

(2) フッ素洗口導入までの経緯

平成12年、指導員より、富岡市では小学校における歯科保健指導が実施されていないため、6月の歯の衛生週間に学童保育所の行事として歯科衛生士による歯科保健指導をしてほしいと依頼があり、その後恒例となり年1度の歯科保健指導を行っている。歯科保健指導を継続していくうちに、乳幼児期からのフッ化物の利用を小学生になっても継続するために、学童保育の場を利用してフッ素洗口を導入してみてもどうかと提案したところ、職員間の話し合いで、フッ素洗口を導入することになり、正式に富岡甘楽歯科医師会に協力要請があった。

平成14年7月の保護者会で希望を取ったところ、全員が幼稚園、保育園でフッ素洗口をしていたので、希望しない保護者はなく、むしろ「実施してほしい」との要望が多かった。経費は、学童保育所の費用で賄うこととし、容器代と薬品代で約1万円程度の負担となった。

平成14年8月フッ素洗口の指示書及び実施手順等を歯科医師会より発行、同9月歯科衛生士による実技指導を行った後フッ素洗口を開始、同11月第一回目の歯科検診を実施。平成15年6月歯科衛生士による歯科保健指導を実施。今後も年1度の歯科検診と歯科保健指導を継続していく予定である。

4) 考察

近年、むし歯予防対策の有効な方法として、フッ化物の利用がようやく広く一般にも認知されるようになって来た。「元気県ぐんま21」のなかでも平成22年までの評価指標として、フッ化物配合歯磨剤の使用者90%以上、フッ化物洗口を利用している人の割合50%以上と述べられている。

また、平成15年1月に厚生労働省より発行された「フッ化物洗口ガイドライン」においては、対象者の項目の中で、「特に4歳児から14歳までの期間に実施することがう蝕予防対策として最も大きな効果をもたらすことが示されている。」と述べられ、フッ化物洗口の実施方法の項目では、「特に、地域単位で、保育所・幼稚園や小・中学校で集団応用された場合は、公衆衛生特性の高い方法である。なお集団応用の利点として、保健活動支援プログラムの一環として行うことで長期実施が確保される。」と述べられている。

今後、一刻も早く小・中学校でのフッ化物洗口が導入されることを希望しこの稿を閉じる。